

平成29年度 学校評価報告書(目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月23日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策(案)		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	生徒の学習意欲を高め、育成すべき資質・能力を踏まえた教育課程編成に取り組むとともに、課題解決に向けた主体的・協働的で、能動的な学びへと授業を改革し、学びの質を高め、その深まりを重視する組織的な授業改善を行う。	主体的・対話的で深い学びというアクティブラーニングの視点からの授業改善に組織的に取り組む。 逆さま歴史教育の研究指定校として、「実践研究」及び「指導事例集」の作成に取り組む。	プロジェクトチームを活用し、研究授業や職員への情報提供を行い、「生徒主体の授業」の視点からの授業実践を全ての教員が実践する。 ・ICT利活用教育を促進し、授業改善に活用する。 研究指定校として全ての教科で「実践研究」に取組み、授業公開を積極的に行うとともに「指導事例集」の作成に取り組む。	生徒による授業評価の項目「生徒主体の授業の工夫」における数値を上げることができたか。 ・タブレット等のICT機器を授業に活用することができたか。 全ての教科で授業公開を実施し、「指導事例集」を作成することができたか。	プロジェクトチームを立ち上げ、「生徒主体の授業」(探究型)に関する研修会や校内の授業見学を行った。授業見学は期間を設けず、いつでも可能にしたため、見学者数等も上昇した。 ・生徒による授業評価の数値も概ね上昇した。特に「取り組み」と「わかりやすさ」は全教科でポイントが上昇した。 ・タブレット等のICT機器を授業に活用することができた。 研究指定校「逆さま歴史教育(探究型)」として全ての教科で「実践研究」に取組み、指導主事等を招いての6教科で研究授業を行い、「逆さま歴史教育(探究型)」の指導事例集に実践例を記載した。	来年度も引き続き「生徒主体の授業」(探究型)の視点からの研修や教材研究をおこなう。 ・タブレット等を利用した授業を先進的に行っている職員による校内研修を行う等してICT機器の活用を促める。 「実践研究」の成果を校内で共有し、さらなる研究に努める。	教科ごとに効果的な研究授業が行われたことはわかった。しかし、今後は、研究授業を同じ教科だけで行うのではなく、他の教科と行うことで横の関係を構築する必要がある。 「逆さま歴史教育(探究型)」の指導事例集に興味がある。ホームページにも載せるなどして、広報にも活用するとよい。 今後、小・中・高校と縦のつながり重視した教育を意識し、連携して、成長に応じた探究型等の授業について研究していくのも良いのではないかと。 タブレットを使った授業を行っているようだが、機材不足で十分な効果が出ていない感じがする。	各教科別研究授業で行った「探究型の授業」では約90%の生徒が学習効果あったと答えた。研究授業後の協議会を教科ごとに行い、報告書を作成した。研究協議を全体では実施しなかったため、十分な情報全教員での共有が図れなかった。 小学校、中学校等の授業の見学を行い、それらを参考に授業改善に取り組んだ。 タブレットの活用した授業は効果が出てきているが台数が少なく制限がある。	生徒の理解を深める「探求型の授業」をさらに研究するとともに、教科ごとの研究成果を学校全体で共有する仕組みを構築する。 新指導要領への移行を踏まえ、小・中の授業から高等学校にどのように発展させていくかを研究する。 PC、タブレットの購入について計画的にできるよう検討する。
2 (幼児・ 児童・) 生徒指導・ 支援	生徒の規範意識の醸成と基本的な生活習慣の定着を図り、生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図り、自他の大切さを認める人間性、社会性を育む。 生徒会活動・部活動の活性化を図り、生徒の自主性、意欲を高める。	生徒の規範意識の醸成を図るため、学校全体で指導に取り組むとともに生徒支援・教育相談体制の一層の充実を図る。 部活動の充実を図る取組みを推進する。	学年会を通して教員間の共通理解・情報交換を行うとともに、生徒会やPTA等との協働による取組みの充実を図る。 部活動への興味・関心を高めるため、情報提供や新たな支援を検討する。部室や練習環境の整備に取り組む。	学年会で毎回、情報交換、共通理解がはかれたか。また、生徒会やPTA等と協働できたか。 情報提供や新たな支援をもとに充実した部活動ができるようになったか。 ・部活動加入率70%以上を維持できたか。	生活習慣の定着を図るために集会やHRにおいて生徒に指導を行った。 ・携帯等の個人情報の管理・扱いについて「メディアポリシー」を作成し全生徒に周知した。 ・自転車を含む登下校のマナー指導等をPTAと連携し、随時行い、年度末に新たな講習会を企画した。 ・個に応じた支援について学年会で情報の共有化を図り、スクールカウンセラー(延べ46名)やスクールメンター(延べ54名)を有効活用することができた。 各部が公式戦の日程を掲示板で周知した。 ・年度当初は72.6%の加入率であったが、2学期末には多少減少したが、16部が新人戦県大会出場等の実績を残している。	駐輪指導については、駐輪場を拡大するなどの方策を講じ、定着しつつある。 ・自転車マナーについては今後も継続して指導していく必要がある。 ・支援体制はケース会議の開催、スクールメンターやスクールカウンセラーの活用による充実化を図り極め細やかな支援を心がけたい。 大会日程の周知を今後も継続し、部活動の活動状況を報告する。 ・加入率を落とさず実績を上げる指導を工夫する。	自転車登校については、日ごろから注意を喚起していくことが大事である。また、映像などを使って指導していくことが効果的と考える。 高校生が、小学生の交通安全の見守りを行うことで、効果を挙げている学校がある。交通安全の意識を高める為に取り組んでみてはどうか。 いじめについては、抑止・防止につながるため、コミュニケーションが求められている。非常に難しいことであるが、今後もしっかりと取り組んで欲しい。 各部活動は実績を残して活躍している。より一層の活躍を目指すと共に、加入率をあげる工夫をして欲しい。	生活習慣の定着については、登下校指導、学年集会、保護者への通知等、様々な取り組みを積極的にを行い、概ね成果はあった。 自転車事故防止については、更なる対策が必要である。 部活動の実績は上がってきたが、加入率が下がった。生徒が部活動に定着するよう様々な工夫を行っていききたい。 ○職員の「働き方改革」等を踏まえて部活動のあり方を考える必要がある。	一定の成果はあるが、保護者の協力がなく改善できない課題が多い。あらゆる機会を捉え、保護者に発信し、協力を依頼する。 自転車通学等については校内だけの指導でなく、外部団体を活用して具体的な指導を行う。 部活動の年間指導計画等を作成するなど、生徒も顧問も分かりやすい部活動を心掛ける。

3	進路指導・支援	「進学先の向こうにある社会」を意識させ、主体的に職業や生き方についての自覚を促すとともに生徒の希望進路が実現できるキャリア教育を行う。	生徒が自己のライフプランを形成できるように、主体的・積極的に取り組めるキャリア教育の構築を図る。	ライフデザインガイダンスを実施し、生徒の人生設計という観点からのキャリア支援を行う。 ・生徒のニーズに対応した柔軟なキャリア支援を行う。	ライフデザインガイダンスを実施し、生徒の理解を深めることができたか。 ・生徒の実情に応じた柔軟なキャリア支援が実践できたか。	コンソーシアムサポーターが配置され、中地区の事務局としてキャリア教育について県、中地区の情報が集約され、大いに参考になり、体験型研修の参加者が増加した。 ・各学年でライフデザインガイダンス（1年職業選択2年FP講演会3年税金教室）を実施し、キャリアプランニングの重要性を理解させることが出来た。 ・夏季講習に科目教科だけでなく、「おもてなし英語を学ぼう」等のキャリア育成型講座を9講座設置し開講した。 ・奨学金等の指導を通じて生徒の実情に応じた柔軟なキャリア支援を実践することが出来た。	今後、インターンシップ、高大連携等の情報を参考に新たな取り組みを検討する。 ・ライフデザインガイダンスの内容や実施形態について、よりよくする方向で、今後検討していきたい。 ・多様化する生徒の実情に応じたキャリア支援について今後検討していきたい。 ・夏期講習については今後も受験にとらわれず、キャリア支援をする講座も検討していく。	夏季講習に「受験補習型」だけでなく「キャリア育成型」が加わり、進路を考える幅が広がった。 キャリア教育において大学とのコンソーシアムだけでなく、専門学校も活用して欲しい。仕事の学び場ももっと活用して欲しい。 奨学金については返済が負担となり、大きな問題が生じている。そのあたりも指導する必要がある。	新しい取り組みを行った夏季講習への参加人数が増加した。 ライフデザインガイダンスを実施して生徒の自分の進路や社会人になるための意識が高まった。 中地区のコンソーシアム事務局としてインターンシップ、高大連携等の情報を参考に新たな取り組みを検討できた。	受験対策の他に生徒のニーズにあった講習を今後も実施してキャリア教育の推進を図る。 今年度実施したガイダンスの検証を行い、次年度に向けてさらに生徒の意識を高め、具体的な目標設定に繋げるような指導を行う。
4	地域等との協働	Webページなど様々な広報媒体を使って、県民にわかりやすい情報提供に努める。 分教室や地域との連携事業や奉仕活動などを通して、生徒に共生の意識を育成する。	Webページのリニューアルに向けた計画を立案し、わかりやすいサイトの構築を図り、情報提供に努める。 地域連携や奉仕活動を通して共生の意識を持たせ人間的な成長を図る。	1学期中にWebページの大きな枠組みを完成させ、順次サイトを充実させる。 ・サイトへの情報提供する仕組みを作る。 授業や部活動、行事を通して組織的・計画的に地域連携や奉仕活動を実施する。	Webページに古い資料やリンク切れなどが無いよう定期的に更新しているか。 ・サイトへの情報提供の仕組みができたか。 地域連携や奉仕活動の調整・確認の体制を確立し、年間を通して計画的に活動できたか。	Webページの枠組みを見直すことができた。 ・デザインや内容など細かな更新ができるようになった。 地域の小学校や町内会との合同で行う避難訓練に生徒と共に参加し、避難態勢等の確認を行った。 ・地域の夏祭り、植樹整備等に積極的に参加するとともに、新たな行事にも参加した。 ・茶道部が老人ホームとの交流活動を実施した。 ・1学年が里山保全活動を行った。	Webページの活用を推進し新たなテーマによる情報の発信を構築していきたい。 ・定期的な更新により、幅広い情報提供に努めていきたい。 部活動単位での参加だけでなく、生徒会として、全生徒がかかわれるようにしていきたい。 ・里山保全活動や地域との交流を計画的に実施する。	Webページは更新され、スマートフォンでも見やすいように工夫されているが、ページによっては、見直すべき点はまだ多い。生徒やPTAの活動が分かるようなものにしてもらいたい。 「中学校の皆さん」の文書が硬い。数字等もグラフ化するなどわかりやすく掲載したほうがよい。 地域とのつながりを大事にしているから、生徒の通学風景や態度が違和感なく、地域に溶け込んでいる。 小学生にとっては高校生との交流がキャリア教育になっている。今後も継続して欲しい。	前年度に比べ、見やすく、分かりやすいWebページに更新できた。運用については、さらに検討する必要がある。 「中学生の皆さん」の情報提供については、内容も含め検討する。 自治会、小中学校との連携は年々拡大し、生徒の活動の場も広がった。今後、可能な範囲で、もう少し踏み込んだ連携も検討したい。	Webページの担当を各グループに配置する等、多くの教員が関わるができる方法や決裁方法等を工夫する。 Webページの記載内容についてページの視聴者年代等を配慮して工夫する。 自治会、小中学校等との連携について可能な範囲で相手のニーズに応えられるように検討する。
5	学校管理 学校運営	学習環境の整備を推し進めるとともに、災害時に備えた防災体制の充実を図り、安心・安全で信頼される学校作りを推進する。 個人情報の取扱いについての研修等を通じてセキュリティ危機管理意識の向上と啓発に努めるとともに、事故・不祥事防止に取り組む。	災害に備えて、3日分の食糧と物資・機材等の備蓄と整備を推し進める。 ・安全で清潔な学校生活が送れるように環境整備を行う。 電子データや個人情報の取り扱いについてのマニュアルを見直してセキュリティ意識の向上を図る。	在庫の確認を行い、備蓄整備計画に基づいた購入を実施する。 ・生徒会やPTAと協働して清掃活動を行うとともに、校内の修繕箇所を確認し、対応を行う。 校内情報通信ネットワーク運用規定を見直す。	備蓄品の一覧を作成し、非常災害時に備えることができたか。 ・生徒会やPTAと協働して環境整備を行うことができたか。 構内情報通信ネットワーク運用規定を見直すことで、個人情報等が適切に管理できるようになったか。	非常災害時に備えるため、現時点での備蓄品のリストを作成した。 ・備蓄品の整理と、新たな備蓄場所を検討した。 ・PTAとの協力で、年2回の環境整備を行うことができた。 校内ネットワーク運用規定を見直し、希望者に対して研修会を行った。 ・教員等への個人情報管理の調査を行い、実態把握と指導、事故防止に努めた。	災害時（3日分）に対応する食料や生活必需品の十分な量の確保について、新たな購入計画及び保管場所の確保等について、引き続き検討していく必要がある。 ・環境整備についての生徒会とタイアップした取り組み方法を検討する。 グループウェアの活用や校内ネットワーク等の研修会を開催しセキュリティ意識のさらなる向上を図りたい。	本校はいつとき避難場所となっているので震災のときは利用できるように市と県で調整して欲しい。双方での受け入れ体制を精査する必要がある。これが減災につながると思う。 防災関係用品もいろいろなこと配慮してそろえて欲しい。 トイレのペンキ塗りや水場の清掃を桔梗隊（PTA）活動として生徒と共に行うことで、学校をきれいに使おうという意識が高まるとよいと思う。	防災用品（食料、用具等）を整備し、内容を充実させた。 防災用品の収納場所の確保または設置については、今後、検討する必要がある。 校舎の老朽化に伴う修繕（視聴覚教室、教室ドア等）を行った。 個人情報の取り扱いについて教務手帳ロッカーを設置したり、事故防止会議を開催したりして、意識を高めた。	防災用品の更なる充実と安全な収納場所の確保に努める。 清掃活動の徹底や、電気代、水道代の節約など生徒が、学校の環境整備に積極的に取り組むよう具体的な指導を行う。 個人情報の管理や校内ネットワーク等の研修会を開催する。